熱多羅佛說

全

ル 4
4362

門 九 4
號 4362
卷

第 1199 號
冊

慶應義塾大學圖書館
昭31.9.17
藏書

熱多羅拂詩序

天地剖判而四天之所環霞之地之所有載土地之丈人民之衆居其間皆將限中國乎東夷北狄南蠻鴂舌莫不蒙其覆載我

東方先王鎮夷防狄豫備遂慮教化之美千載日星猶並照於今日豈不一快事乎我都貴田先生家世世以兵繼奠裘其余力好著述記悠夷國藉以國不朽蓋熱多羅拂之地北極俱在干麒鵠凡馬牛之不相及雖有鴻雁何能朝夕

國家肆平欽遵先王鎮夷之意以化聲俗忠信雖迥

波濤平、遂得窮河源、今先生著此書、以圖不朽、且其
言古仁術、恐有役卒狡儈之患、余不佞感嘆其言、且
寇絶海万里於袵席、不至崑崙而得尺寸、是所以為
序也、

文化三丙寅之夏　　工藤道生

慶應義塾藏

文化三丙寅

跋邏巴州之中、鄂羅斯國当其南隅、而有輪轉之地、
称於波津加、自恢夷之稱莫羅、至彼之托波津加、北
東洋中有二十一嶋、是皆本邦之属島也、世俗称之
曰蝦夷之千島、相距東蝦夷稱莫羅之地、只隔一帯
水、而有久奈之利島、其地周回百有余里、又北水行
七里、而有紗多羅拂嶋、其間海潮駛急、是二十一島
之其二也、皆濱山海、而成聚落、其邑如十、各自有長、
以統其地、爲夷人被髮長髮、其服著羽毛獸皮、而左
袵、穿銀鐶、寒中渡堅氷、而捕魚及海豹為業、此土

北極出地至于四十八九度諸山皆崢嶸崎嶇四時
瀼瀼而先日光稀也凡氣常寒海水凍怒激于巨濤
冰土而內雪山實冰海之地也污氣侯及寒暖作於
夜國冰海卧爾根德氏土周回二百有余里東南之
地有山岬崖峻巨濤逆突產物漁獵亦少故部落稀
有只開於西北之地而內部邑自氏土距魯斯亞之
國界水行一百五六十里氏洋中有稀蜘之千島者
所著于地圖之二十一島者其大島也近世赤胡有
南國志而二十一島中並吞十九島而今存者僅久
奈之利島熱多羅抑島之二嶋也而已嗚呼

本邦之大事抑不勞西氣則恐至用斧柯乎若及有
事于赤胡則其如之何志士不可不強爲之故縣官
伏朝士及吾藩與南部之西國而設堡障以爲屯戍
如無此警衛後世有噬臍之悔乎雖昇平日久有此
役者誠國家之大幸也但可憂者在嘗之戍兵不伏
水土則不能防嚴寒故不可無施仁惠防嚴寒享食
養之料而以全人生之良術矣若夫氣侯寒暖及凡
俗和漢群籍之所未記載古今衆賢之所未論也故
聞彼土之役卒及船翁家言以聚輯而爲一小冊号
曰熱多羅抑誌則者不尤拙文粗事乎之幸也

文化三年夏四月

賈田惟邦撰

厷多羅拂島記目録

一 我藩以前日り厷多羅拂島ニテ行程海路之事

一 厷多羅拂島方位并地図附惣夷千島之事

一 日所測之事

一 日所乞候分氷山氷海之事

一 日所疾病附医薬之事

一 夷人衣服附雪橇之事

一 斉亜耶斐衛之輕卒逢風九羅義附斯伯多羅施書多之事

一 斯伯多羅鯨魚ヲ取事

一 奔亞那ヨリ斯伯多羅陸路之事
一 樹木花之事
一 夷人家作之事
一 野菜之事
一 草木鳥獸之事
一 熱多羅拂少人位之事
一 シヤナ陶器ヲ掘出セシ事
一 夷人ヲムシヤ之事
一 ヒトロフ長伯夷ノ義衆泳歌并帰夷民ニ化セシ事
一 西各母島并黒狐之事
一 熱多羅拂ニ公義衆妻子渡海之事
一 日所并ウルツフ島附録

熱多羅拂誌一

貴田雅邦 著述

吾蔵ヨリ熱多羅拂島ニテ行程海路之事

一 弘前ヨリ三厩ニテ 二十六里八丁余
一 三厩ヨリ 水行二十八里
三厩ヨリ若狭ヘ年来ノ風ヲ以テ開帆成洋中就渡中潮白神ト云テ三ノ汐アリ甚駿急ナリ故ニ針路ヲ松前矢越ニ標的シテ馳走スル也
一 若狭 五里 七里後亥休ニテ十里余
若狭戸数八百軒程 縣支 吾蔵 南部勤番所アリ皆人

ノ知レ所故ニ器又器鍛ヨリ薩中岩谷山南部佐井山松
岳カヤベ嶽見ユルナリ

一 大郷　八里半

一 鷲ノ木　三里　立休ノ所也人馬継所

ワシノキ戸数四十軒ハカリ　此所ヨリ鷲ノ嶽有鎖カケト云
所ヨリ下リ追分ノ杭アリ右ノ方恵地ノシカベ道
左ノ方ニ大沼アリ夫ヨリ左右ノ木立ヲ通又追分ノ杭アリ
右ノ方サワラ左ノ方鷲ノ木
ヨトシヘ戸数三十軒ハカリ舟所アリ入口川アリ

一 ヨトシヘ　一里　人馬継所

ノタライ戸数七八軒ハカリ舟所アリ此所川アリ船渡

一 野田ヨイ　一里四十　人馬継所　日所ヨリ鷲ノ嶽ノ方ハ
寿比川花吉郎

日所漁小屋十軒ハカリ夷家七軒位出口川アリ船渡シ

一 ヤモコシナイ　八里半　シラリカ立休ニテ四里位

日所漁小屋五軒夷家九軒ハカリ入口左ニ舟所アリ
ヤモコシナイヨリシヤモ多作ル是ヨリ口口ヨリ奥地ハ鮭昆布鮭ニ
年ニ五百石ヨリ也

一 ヨシヤニンベ　六里半　シラリ立休ニテ三里

日所舟所アリ漁小屋ハ十ニ夷家十軒ハカリ川アリ船
渡シシラリヨリアブタヲ此方様ニ飯新石切所也
シヒヤニンベ日所ウス谷光ヲ糸ノ岩アリ昆布鮭漁ノ沖ノ切所也
此宝直上三ノ文ニ付ニ所ハ廿五ヲ七ヲ文ニ付ニ所ハ五百文ニ付

一キ[illegible]アリ

一 レフンケ　五里五丁二十間　後ハ福井浦ヨリ大漁大名所ト

此所船ヲ通ル也　同所舎所アリ夷家アリ

ヲツクシ峠アリテカヒキリ境水トモ平アリ此所ニオクリカヒキリアリ

一 アツタ　七里

此所船ヲ通シ同所舎所アリ此瀬中ノ大金ヲ求ル夷家ヲ

ナガ中　金ヲ求ル制札アリ文ニ曰

一 郡家ヲ立ル人ヲ[illegible]ヲ其罪ヲ

[illegible]

一 人ヲ殺ス者ハ罪免罪ヲ[illegible]

一 人ヲ殺ス者ハ盜ヲ[illegible]

申十月

此所ニ狩ヲ[illegible]アリ　同山牧　平地牧　畠同牧　棒杭ノ銘ニ曰ク[illegible]

文化二年[illegible]大小[illegible]ノ未年[illegible]

一 モロラン　三里　チノベツ　五体ヲテ二里半

同所夷家三四軒舎所アリ　前ニ白名間トヲテ船ヲ[illegible]ノヨキ間

アリ是ヨリ上トモサキヲテ海上一更余　此[illegible]

一 ホロベツ　七里七丁　アイヘ　五体ヲテ三更余

同所入口船後ノ川アリ舎所アリ下ノモアリ往来人ノ宿アリ

一 シラヲイ　九里　ユイトヘ　五体ヲテ四里半

日所入口川アリ舟渡所并家数十軒ハ中リ　此所法会大畠第五ノ寺　西方坊

一　ニウツツ　八里　下武　五休ニテ四里余

日所入口ニ新波ノ川アリ辺迄ノ大舟ニ日所平地ノ板敷多
アリ鵜飼ノ大漁ナリ夷家数六十軒ハ川ニ新石切開アリ
第八三古日ハ上四郡在但日ハ民第八ヲ用農物ト上棒杭ヲ法会相承寺
此処迄の条所アリ

一　サル　六里　アツヘツ　休所マテ三里十四丁

日所入口ニ船後川アリ舟渡所アリ夷家十軒ハ中リアツヘツ
日新石切開アリ　第ノ産物椎茸カスベ鰈沖一ハ海産ヲ
左　農家昆布沖の物ヲ

一　ニイカツフ　六里廿丁　宮ヲ十丁　五休マテ三里

日所舟渡アリ夷家六十軒ハ中ハ峠アリウセヤヲ新石切ナリ此

所新切ノ書アリ

一　ミツ石　八里　ウラカワ　五休マテ五里　但ウラカワ泊ノ方ハムツノ子五ヲリ

日所舟渡アリ船付ノ間アリ夷家七十軒アリ六丁ハカリ行船渡
ノ川アリウラカワマテ五里此所ハ部勇場アリ小口ベツヨリ
ミヤヲ二ノ間ニ新石切開トアリ海手ノ中ハ海岸通ヲ
此ヲ奇和魚鰈カスベ共分物モノヲリ　生活アリ時海サルヨリビロウヲ
月ヲ也　ヒロウ　法会小山宝寺
ミヤヲ　七里八丁　小口ベツ　五休ヲ四里八丁

日所舟渡アリ船カクリノ間アリ辺迄ノ大舟ニ此所ニ生活方ア
リヲミヤヲ二ノ間一里二十丁間平地家新石切
開牛アリ　ミヤヲ二ノ二里位リ岩穴アリ完ノ幅三尺中ヲサシ人位此所ノ
如勇カ盗ト云南アリ新開ノ所

一 ホロイツミ　六里　アツベ　五体ヨリ三里余

同所金所アリ船ガヽリノ澗アリ夷家四軒アリ五日ヨリ十丁ヤ
行テ新乙（入アツベ）ヘレ行リ間右ノ方ニアリモ崎見ヘル也夫ヨリ一
里行先ノ方ニ沼ヲ見ル

一 サルヽ　五里十三丁　ヲミヤル（ヘツ）五体ヨリ三里深

同所山中一ツ家ヤリ人夫四人行ノ部ベカリホロイツミ者ヘ呉
夫人ヲ語ル　五日ヨリ海岸ヲ十三丁夫ヨリ海岸一里分リ
行テ新乙（入ル）ヘ夫ヨリコシヤルヘツ五体ヨリ二里ハカリ中
程左ノ方板ト形付ル童ガアリ

地図

されこうハ、はきをかり、トモチクヒ、ピルトイとくれ
ばんぞよりしてうらいれを、牧きまへきまよりてみたひ
ゆうくうきりかくき、たうれちあくよのち、うらいのも、
ひをあるのき、ろろんのさくはりとも、きりまくく、なかく
うらいのたのを、ろろかく（きとめる）

寛政十年十月　近藤重蔵手

海岸島雖所故右ノ如ク通メル也武間紋右衛門年来二年
ノ切開キ之棒杭ヲ家ヲ西角宮森宇子郎四名久次郎ヲ新
下北ヲ大畑ヲ人夫ヲ以テ切開之トアリ
武四郎ヲ乗ル故ヲ夫人ヲ之ヲ乗ル（ヒロ乗ヲ）トイヘヒロ乗ヲハナスナリ

一ビロウ　七里　アイホシロて　休所てテ四里

日所舎所アリ船ハくりノ岡アリ義出崎所アリ是ヨリアウ
ケシ臣ノ物所と東家ハ九軒ヨリ先ノ方ハ切開へハル
トウフイ西北ノ方ハ河右大沼ノ如ク脊里雑喫多シ西南ニアメワテト
カチ山見ユル大山ナリ

一トウフイ　六里四十　ユウトウ　五休てテ三里

日所出屋一軒アリ出人ヒロウヨリ出ルユウトウヨリヲホツ
ナイまで川ニ黄石ノ如キ黒石多シ　鮭網アルモ老人ノ食料ナリ

一ヲホツナイ　八里四十五十一里　ヲヤツヘ　五休てテ四里

日所出屋一軒アリ夷人クスリヨリ出ル出口船屋ノ川アリ
トカツコテ廿七八丁日所船屋西ノ畑三四丁ニ近四人夫

河之川向ニ漁手ノ夷家一軒アリ　惟邦曰トカチ川上ニ夷人居多シ
ヲ弁慶の口海アリ　ヲ凡テ氏四ヨリトカチトヲ漁ス多シ

一シヤクベツ　四里八丁　ハシクル　五休てテ二里十三丁

日所出屋アリクスリヨリ出ル夷家ニ一軒アリ出口ヨリ船ヲ
ヘ入ル　シヤクベツハ王ヲ日ハ在住セリ日ハ夜ハ住居スルナリ
惟邦曰クスリ川ヨリ山ニ上リ船ヲ上ノ口ニ社アリアカニ弥ヲ祭
事他家ニ夜家ヲ見ヲ東ニアアカシメアカシトヲ山アリ山中ニ大小
ノ穴アリ往古夷人穴居セシヨシ

一ヲヲ又カ　七里　ヲタノシノ　五休十九三里

日所出屋兼夷家アリ氏所ハ王ヲ千人日ハ南在住ノ屋敷アリ
クシリ　四里五丁　カツラコイ　休所てテ二里

日所入口クスリ川大河アリ船渡山ヲニ檜現ノ社アリ久ヲリ毎

ヲ登ルヨシ西南ノ方メアカンヲアカンノヒ山見ユル也
此所方ヨリ今所迄ヨリ此所酒ヒロウヨリみモロヒ用ル法令柵木
諸〻物
カツラコイ是休此処ヲ長昆布アリ山へ四六丁上リ又下リ海岸絶壁アリ
岩穴アリテ此間ヲ通ル前ニ記ス武治ト此所家ヲ絶家〻此口夷家外ト
少異也

一

コシフムイ　五里　二十丁　シヤウテキ　五休ヲテヒ里余

同所宿屋一軒アリ此所ニ本化石アリ雅石ナリ第銀山所後言
楊氏三郎ヨリ帝ニ送ル石ヲ見ルニ本理ヲテ土壇ノ如ク上部下
部ヲ種アリ硯石ニヨル　甚堅実ニシテ玉出シ吉来絶ヤ此物ヲ多今ニ源想地絶ノセツ也
セシホウヒ　此上ヒ里
日所此宿屋アリ海ヲ二里余ノ入海也其間ノ向ニ周リ四

一

里位ノ島アリ大正島ト云ヒトロフクチシリ海内ノ船風悪キナハ
此所ニテ日和待也甚ヨキ泊也此所ヲテ馬ノ産物アリ是ヨリ
奥地マテ馬ナシ此所石炭アリ燃ル石也西ヨリ上ル
此ヨリ里ノ山宿アリセシホウヒ山中ニトマル船大小ヲ問ハズ光ヲ不見故ニ
多ク此所ノ間宜シキ者ハ船ヲカスベキ魚
アワケシ　六里十八丁　マニヘツイ　五休ヲテ四里
日所今所アリ義経ノ旅宿ニアリ今所後ノ宝アリ
也蔵宝蔵家上陸内ヒヒヒトアリ今所前ヨリ乗船入海
ノ内ヲ十八カリ走ヨリ沿ト入ル也沿内二十三四丁通ル也大
沿也沿ノ内ニ小島アリ海中弁天ノ社アリ此島ニ砂多ク石
多也夫人ハ一食料トスルニ夫ヨリ河ヘ又一里余バカリ上

リケベカンベウシトヽ云所ヲ上陸下船東地ヲ一ノ坂所ヒ下船東
地ノ三坂所トヽ云ハ九十ヒリ程アツテシキイタツ十リ上船東
ノ三坂所トヽ云ハカラフトヽヒヤリツウヤナリ本邦ノ三郡
トヽカハヒ国素ヲトヽ云ヲリ彈家十リ山手ヒ以外ノ社アリ(略)
ノコヒリヘツ 五里六丁 テイナウシ立体ヲテヲ二里

四所当ヲ山中ノ一ツ家也ヲモロヨリ来人四九当ヲ下ヨリ道
ヒ川船ニ乗ルヲリフウレヒヘツ二里ヲ乗下リ夫ヨリフウレヒ

トウトヽ云沿内三十一丁ヲ乗ル也右出汐ノヲハリ乗也右沿ノ
端ニイタリホウシ休所アルナリ是ヨリニレベツヘ陸道右近
午申船ニテ通ル小道ニ海上一里ヲ也右沿内ヨリ九十ヒリ
鳴丑ノ方ニ見ル岩鼠ヨリ四方地ヲテ七十六里余ノ間一里
塚アルナリ○此所ヨリ九十ヒリ卯ヨリ辰ヘ海ヨリ辰トロフ
近海上百五十里位内所ヨリ出帆ミテ二十里位ニテ九十ヒリ
ノ内チヤヒヌホリトヽ大山アリ岩木山ノ如ヒ
アシヌベツヨリ子モロヒ川沿水上九リ川均三里ヲ川岸通ハ島郡多
アリ定巣無ヒ似ヲ本邦ヲ見ルヲリ夷人ヒ問フヒホンチヤウトヽ云ホンハ
小也チヤウハ島ナリ
右郡勤当所アリ子モロ張会中村中郎 上役 増田宮左衛門 産医 中村春隆

ヒヒヘツ 九海上六里位

五所十ヒ

同所当宮アリ当人ヲモロヨリ回ル夷家二十軒ヨリ当宮ノ後
ニ川アリ凡宜シケレハ是ヨリ久奈之利島ヘ直渡凡壱ケレ
ハツツケニテ和船ナリ

ノツケ　　海上三里

同所当宮アリ惣夷家アリ当人ヲモロヨリ回ルクナシリ海
渡船凡拾人位所ナリ同海上三里トイヘ共壱ノツケノ出
崎ヨリクナシリテツトウ出崎ヲテラノ間三里位トシ汐駅
急流上難無之海ハ浪ヲ多ク有テ深ト云海キハナシ
尋位ト云

クナシリ島
トマリ　　四里位

同所クナシリ第一ノ大舎無之ヲ義出勢之備役張合ノ場所也
島中ノ夷人ハ所ニライテ支易又左ハテラチイ崎右ハノ
ツツ上ウ岩崎ナリ同間砂浜四里半ナリ入輪也中程ニ会所ア
ル第動当所ヲ義衆在住ノ長屋大工鍛冶ヲ同長屋ア
リ弓鉄砲ハ修ス業也同所ヨリ出帆センヘイヨメンヤシ
里半同所夷家ヨリノツツトウヲ一里半夷家アリノ
ツツトウ岩崎也ハ崎長崎急ク儀ハ味役之指三年
宮ニ商中魚商ヨリ出陶器ヒトシキモノ出ルトヲ又ハ牛房沢
山アルトヲヘリ

ヘツトカ　　十里許

同所当宮アリ夷家山ノ上ニアリ同所ヨリ五里弱ハセキ

トゝ温泉アリ東家ヨリ北辺辺出嶋アリテ海急流也

一 チフヤルヘツ　十里位

同所番家ヨリ東家ヨリ同所ヨリ里程ニシクシヤクシトゝ嶋アリ材木ヲ乗上テタルヤキノ石山ノ嶋也嶋ヨリ丈位ヲノ角石ニテ高タルヤ長サ三丈位ヨリ八九丈ヲ珠石ヲ同所ヨリ七里位ニシテルロテイ出嶋アリ此所ヨリ熱多羅地島見ル

一 ツンネトウ　十里位

此後人家所アリ後ノ方ヲトウノホリ大山アリ

一 ヲツチシ　十五里位

同所地宿ノ場所シルヘ宜シケレハ熱多羅地ナリホヒ血海

一 アトイヤ　七里位

同所番屋カリ也四月ヨリ九月マテ番人一人夫人一人トマリトゝ所ヨリ四ル蕨高松漁ノ食料ハカリシ此所山家多シ

同所番屋ノ方ヘ棒杭二本アリ長サ七尺位其銘曰

右　寛政十二庚申年六月ニ

表　東蝦夷地久崇志利多用国会所

左　戸川藤千郎安倫
大内内蔵千郎政良

一本ハ長サ六尺位ノ皮付ノ丸木ノ中ヲ皮ヲツキテ

其銘曰

戸川安倫大内政良一たちヲ秀の表この所

一

まろきれとつの標をたて縄ゆはへ[illegible]
舟をとめてみれハ[illegible]
[illegible]の道[illegible]
おのれも標を設て書付侍る
此岬をたのしハいかなる[illegible]の[illegible]数[illegible]
享和元年[illegible]六月十[illegible]

巡察使史　羽太正養謹誌

是ヨリ弥多羅岬島宮ノ下方ニ見エ西ノ舟嶋午ノ方見渡リ
十八九里ト云　余程大ナル島ナリ

蘂多羅岬
タンネモイ　　九里位

一

同所南ニ弁坂東小家アリ番屋後口左ノ方ヘ[illegible]タルヘトア大山ア
リ山上ニ廻リ八間位高サ廿二丈ホトノ大石有此石ヲ夷言ニテ
チウシユマト云チウハ星ト云フシユマテハ石ト云フ之夷人稲尾
ナト棒ケテ恭敬スルト云リ同所ヨリ離壁モイケシノ岬マ
テ三里位チヤシノボリト云大山ノ岬アリ出崎四ツアル也何モ
嶮急モイケシノ後一里位ノ入掛ニシテ海岸峻嶮之氏
江中ニ離島アリ周囲一里位島名モイ子ヤルト云是ヨリマヽ
イシ三里余ロヱウノホリヘ付来通ルヒ同所番所アリ夷家
アリ鰐鯉漁ノ場所之此ヨリナイホマテ二里灘乗易之
ナイホ　　十三里位

日所者風アリ夷家アリ川アリ幅二十間ヨリ鰯魚大漁ノ場所也材
木新川流ニテ出砂浜ニテ大ナル入稀ナリモイケシノ岬トアリ
サイカリノ為出ル雖乗之チウトマリニテ二里位ノ間乗安シ
是ヨリ二ウシケイシ四里位ノ間出崎所ニアリ此所船駛急
ニシテ且難ノ場所ニ付ト号ル第一ノ難所トス二ウシモイヨリ
凡宮ケ山ハライトヘ流之凡十ケシハラメシニツヲ一里半
隆乗易シ日所也為ノ場所之大ヨリイダクウシヘツヲ二里
乗安シ日所ヨリトリカムイマテ三里位ノ間ヒトカフカルイシ
山根通ル付乗也海岸岩石故潮急也トリカムイトト日様
ノ人漁也日所ヨリライトマテ一里半雖乗十リ

一ライト　七里位

日所入口左右大岩山之入口差渡七十間半内ハ五十間四方位ノ
入海凡ノ害ナリ船カヽリヨシ番屋アリ文化元年出張吏
家アリ川アリ鰯魚ノ漁場也南部勢多所右ヲシラヘツヘハ
日所ヨリ山越ナリ日帰シ早シ是ヨリフウレヘツヲ二里海
岸岬ニシテ浜ナシ日所番屋アリ夷家アリ鰯漁場也
谷ノ形日所ヨリホンハタウヲ半里半日所ヨリトハタラ
ウシヲ三里半間ツカイ出崎トテ泊駛急ノ所アリ大
難所夫ヨリ潮通ウウシヲ半里日所番屋夷家アリ
鰯漁ノ場所也之中ヨリ海岸石浜クルベツヲ一里ハ

カリ難乗易シ

ルベツ　七里位

同所右ニテ一軒家アリ川アリ鮭魴大漁ノ場所ナリ同所ヨリ
イフハラウシ迄ニテ二里位難乗　是ヨリ北多羅沸迄
二里半許沿岸シ同所ヨリアリムイシ一里半同番屋
并家アリ川アリ鮭魴ノ漁所也是ヨリシヤナシ一リ
半許ニ同ニホシモイトヲ所アリ石狩ヨリ佐井ノ大坂
ノ船乗門ナル船此ニ泊シ波ヲ避ケ帰ルヘキノ泊トス山上ニ毘
比羅堂アリ乗個ノ布文ニアリ
シヤナ

同所大舎所アリ エトロフ第一ノ場所ニシテ武蔵国中徳多ノ庄
甲斐武蔵ニテ開ク　公義ヨリ勤定御役番下吏八王子ヨリ出張
今シヤナ川ヲ一ツ隔テ南方ニ対方様ノ勤番所アリ公
義舎所ニテ一丁半許川ニ橋アリ川幅十五六間橋ノ長サ七
八間公義舎所ヲ強ノ柵外通柵ニ門二ケ所夫ヨリ少
シ離レテ東部勤番所アリ其外在住長屋鍛冶大工ニ西方
大長屋アリ山上山下ニ夷家七八十軒アリ吾屋弘前ヨリ
迄多羅シヤナマテ海陸法合テ三百三十三里四十七丁十一間
ニ成ヨリシヤニ　三百六里六丁七十一間

○有亜那（シヤナ）ヨリ斯伯多羅（シベトロ）マテ海路

一
シヤナ　一里
日所南東家アリ十ヨロヨリヘトフと陸路三里余船路と
ケリタル所也
一
十ヨロ　十四里
日所南家并東家アリ川アリ鰹漁ノ場所日所ヨリヘトフと
海路チルフノホリトゑ大山ノ麓アリ此辺第一ノ嶮所汐
悪敷急ニシテ上トロフ第一ノ難所トゑ
一
ヘトブ　九里位
日所南家并東家アリ川アリ鰹鮭ノ漁場所アリ日所ヨリ西口
シヤと六里ノ灘乗易シ日所岩宮アリトウロヘ分サルヒ
ハ此所ニテ神宿ヨリ是ヨリトウロニテ三里汐早シ
一
トウロ　三里位
日所南家東家アリ鰹漁ノ場所日所ヨリシヨウフチヤニテ
二里位ノ灘乗易シ日所東家アリ是ヨリマノヨマイと一里
汐灘ノリ汐早シ
一
マノヨマイ　三里位
日所南家ナシ東家ヨリ是ヨリシヘトロと海路険阻故ニ汐
早シシヤナヨリ陸行ナルトイヘモ峻岨ニシテ極難所ニ
シヘトロ
日所ハ極動所形ニノ場所ニ南家アリ東家三十軒半

アリ鄂羅斯人ハ此所ヘ義船ホ赤ハヒンヌベリ（モ着テロシヤ人
住居ウルツプ島マテ水行十八里ヒベトロ大河アリ鱈魚ノ大
漁ノ切所ナリヒライトヒ二里余日所ヨリヒンヌヘツヒ一
里位是ヨリ東ノ方未詳
弁亜那ヨリ蝦伯多羅マテ水行三十二里

蝦多羅海誌二

蝦夷東北ノ大洋海路之実

蝦多羅海辺ノ大洋敵戸多リ汐甚急流ニシテ多ク鄂羅斯
辺ニ通ル船共其土地ノ岬崎或ハ敵戸ニヨワテ東南北ニ流
ル汐モアリヘツシヤブ岬ヨリ五十里ノ沖ニシコタントヲ島ア
リ此辺ヨリウルツプ東北ノ大洋ニ至キミレトコノ岬ニ険
山ニ水ヲ盛タルヤウノ面一四ニ碇宿ノスヘキ所ナシ故ニ
適漂船モ此辺ニ輒起シテ波中クリスレハ碇爪直綱未シ切
テ船ヲロシヤニ漂着セリ其上此辺ハ雪霧殊ニ日光ヲ不見
ハ多分故盗光ノ舟船モ路ノ標的ヲ失フ故甚難セ

ミト云

勢多羅拂洞ニ事

勢多羅拂ノ内有要那いかゝ所用ケタル土地ニシテ南北ハ陣屋ノヤリ処十リ北所ニ大河アリトイヘ共遠浅ニシテ碇宿スヘキ処十リ故ニ其土地ヨリ半里程前ニ舟岩トナヘキ土地アリ然ルニ当義所雇船ノ船頭大坂松右ヱ門ナル者工夫ニテ其海底ヨリ而早切ヨリ二三百貫目ノ石或ハ一坪二坪位ノ石ヲ縄梯ヲ以テ引上ケ大底千石船ノ三四艘モ洞槽ヲ敷スヘキヤウニ海底ヲ浚ヒ大底式ノ洞ヲ拵ルニ付大金ノ費用影シトイヘリ彼松右ヱ門ナルモノ工夫ニメ於洋中風気吹キ碇ヲ掛ルニ海中嶮山ノ如キ故ニ何ナル加賀□ノ綱トイヘ共皆時ニスレ切碇ノ爪ノリテ用ニ堪ルイナシニ付ケ松左ヱ門ナルモノ碇爪ニ縄或糸綱ヲ表碇ヲ環ヨリ上四五間ノ間桐ノ輪ヲ拵ヘ綱ヘ通シ碇端ニケル桐ノ輪スレサル中ハ□処堪シヨリ引ト引ノ通船多ク時法ヲ用ト云リ客歳長崎ノ出舟数三艘魚ノ乗平治ナル者共洞ニ碇宿セシ以ハ大分洞モ深密シケレトモ春ノ爪波ニテ土石洞ニ入テ絶滅クナリシト云リ時洞アヘナリメ蒲鉾ノ如ク沢山ナルヲ如ク蒲ト云リ岸陸ニメ人家更ニ不成土地トイヘリ時洞ヨリ格船ヲ以テ三四十ハ匹迄ニ直船スレ共ハ爪波アレハ運送スルヲ難シエト

モヨリ上リモ廿キロアツケレトチフレイユメヌカウエニベウ
辺ハ雲中雲霧夜ヲ日光ヲ見レハ稀ニ名シリヨリ
ロフ宮ツフノ大洋ハ全ク霧ノ霞モ尤強サレトヲヘリ必光
ハ雲大ノ為モナリ又言山モナキ故雲霧ノヲヽイ稀ナ
ヘシ

日所気候附氷山氷海ノ事

エトロフニヤ十ノ季ハ六七月ハ福中ノ五月況ノ由六月末
七月初旬ニシテ四月ヨリハ昭ニテ早衣ナト用ヘキ
ハ稀ニアリ八月末ヨリ段ヽ寒冷ヲ催シ十月ノ末ヨリ海
辺海岸ヨリ大洋ヲ一円氷リテ氷山ヲナシ始メ氷ル処ヘ

大波打上リテ水港ヘ遠望スルニ秋福中ナト雪中ニ山ヲ見ル
カ如シトヲリ其所ニヨリ水ノ表鏡ノ如キ所モアリ其所ノ土
人氷上ヲ歩行テ為氷ヲ被リテ海物ヲ捕ル土人使船寒ニ
オシ其海ニテ為氷被レテ海底ニ沈没又死セル者アル故ニ
為時ヲ儀ヨリ海物ヲ取ル事ハ禁法セシト其氷厚
サ一丈二丈トヲヽナリ雪ナリハ難ナトヲリ望セシニ大
洋一円ノ雪山ト成テ恰大ノ千島及鄂羅斯ノ土地ニテ
一円ノ氷海トイヘリ三月上旬中旬ニテ春陽ノ気トイヘ氏
リ必其氷解ルナシ只風波ヨリ堅氷欠テ沖ヘ流ルヽト
ヲリ其流ルヽヲ日ノ及タケ遠望スレニ只雪山ヲ流シ又

或いは氷い白帆ノ馳走スルかしレト云フ

惟那考曰夜国氷海陸地尖山ノ土地ニ成ニヒトシ エトロフ島ノ度数ハ五十五六度位ノ由山岳ノ渓水聚テ川トナル川水アツマリテ海トナル大陽ノ熱気海中ニ入ルニ練テ潮トナル故ニ海水陽気アリ故ニ冬不氷夜国ハ口氷海トナル天気不徹ス気海ニ入ル浅而不為鹹故気薄故ナルベシ

斉亜那氏陣屋客歳ヨリ諸金ノ者ニ厚ケルニ井ト云モノ其故ニ水ハ川ヨリ汲用ル故ニ青昼ヨリ川水浅テ水汲ムツナラス故ニ毎夕鉞ヲ以テ氷ヲ切開キ用ユトシリ夜ノ内モ瞬息ノ間ニ氷氏故其度毎ニ切開クトイヘリ一体シヤナノ水ハアツケンヨリモロクナシリ辺ヨリハ水性ヨロシリ清水ニトシリ客歳日所ヘ運送セシ酒用切シ寒気強ク殆ト困リシヨリ厳寒ノ酒ヲ用ヲサニ公義ノ舎所ハ各心レケレハ酒氷テ不成ノ故ニ

一

昭ヲ過ニ来ルベシト云其様ヲ付フニ大釜ニ湯ヲ沸其内ハ四方ニ又氷タル酒ヲ釜ヲ入ル酒ヲ煎ル所皆凍死シテ僅ニ今二四人ノミ残リ此類リ以テ彼土ノ寒寒ヲ考知ハシ

夷人衣服ハ雪積事

熱多羅神魚ノ土人ノ寒中衣服ヲ見ルニアツシ、テメラベヲ肌着トシ上ニ犬ノ皮海豹皮或ハシカベ多鹿ナトヲ丸剥ニシ是ヲ纏リテ衣トス彼ノアツシヲ上衣トスルナリ只二重ノ衣ニシテ寒気ヲ防クノミナリ是自然其土地ノ気ヲシムルニ履モノハ魚ノ皮ニ二枚重ネニシテ是ヲケリトシ氷ノ上ヲ歩ムナリ

考ニノルウンランドノ人物ニヒトシク是天地ノ寒温ニヨツテ終
ノ業不得止所之雪ノ後ノ風ニシヤナ屋中ノ四辺ハ大雪
トイヘ二尺トワモルナシ是又忽発風ニテ吹サウス故ニ山
中ノ風ノ不及ノ所ハ多ク積ルナト云リ然ニ諸経ノ雪ニハ如

日所疾病附医薬ノ事

十月上旬ヨリ寒気モ沙汰夜陰ニ至シ厳寒骨髄ニ徹
シケル故夜中煙ニ薪ヲ沢山焚キ寒ル節ニ布団一ツ宛其上
ニ蒲団ヲシキ其上ニ又布団ヲシキ婦人三ツ者ニ其上ニ蒲
二ツ宛テ寒ルニ肌ノ温ナルナリ西更ニ及テ寒気ノ甚キ
言語ニ絶ヘ左ヲ下ニスレハ右ヲ下ニスレハ右寒シ

夜明ニ至不寐ル毎事ニ夜明テ是ヲ見ルニ上ニ露ル夜着寐
気氷リテ板如シ此陣屋ハ四方板サリリニノ内型ナリ其型ヲ
見ニ皆氷柱立テ屋内寒冷タリ故ニ猶冷酷寒ノ節ハ皮
膚骨体ノ様ニアラス故ニ春暖ニナレハ皮膚ソコヽ緊ニ
ナリ痒ノ如ニ土地ノ水上ニ不服寒気ニアタルモノハ彼鄂羅
斯ニ流行シテ十ウト云病ニヒトシク寒気骨髄ニ入リ型
痛ミテ浮腫ノ催シナキモノモ春陽ニ入ルトタ足タルキ云
ニカタナシ殆ノ寒気ニアリタルモノハ二月ノ末ヨリ浮腫ノ
催シテ三四月ニ至レハ浮腫皆水気全体ニ充満シテ終ニ
死ニ及ヘリ彼ノ奇効称ニ挙タルホウトル桂枝ヲ以ノ医

業ヲカヽルヘキヤ又云蒜ヲ熱テ湯ヲ以テ服之スレハ空気
ヲノソクト云リ杉前城下ノ士人某曰婦人ノ寒気ヲ防クニハ亦
一居小屋丁字ヲ土蔵ノ如ク孔寒ノ不入様ニ取造炭炉
火ヲ消スヿナク衣服ヲ重ヘ就寒ノ内ニ折ル唯衣服ト家
居ノ取造ニ依レリト云リ又下ヲトイヘ屋宅ノ節ハ湯ヲ以
テ防ヘレト云リ又云雖スルモノハ食物ナリ彼ノ土ノ地菜ナク
又平生寒温ノ養ナリ只有会所ノ魚鼠山蕨ノ類ヲ常食料ト
又故ニ疾病発起スルニヨテハ大ニ害ヲナス客歳彼土地
ノ法会諸々ノ経工ニ勝ル大帝ナルモノヽ嘶ヲ聞ケルニ彼
者深ク寒気ニモ不中春陽ニ至テ分体寝室ノ家色

二メ自宅ニ入ルクヤキヲ焚キ所ニ上ルニ呼吸殆セワヽシリ勇気ヲ病
モノニ似タリト云リ彼酷寒ニ折タシ活脚ヲ病テ死セルモノハ
南部家ニ二人（外ニ一人故郷ノ帝形中ニテ死トキノ）ヲ義此雇ノ者ノ内三人死セ
リ為国ノ役事十有二人死セリ

斉興那珂郡ノ経事達聰風教儀 附 斯伯多羅

土地宮子ノ事

彼ノ者お帝ナルモノ 四義彼人ヨリ彼命シハ上トロフノ内シヘトロ
当年経営ノ居小屋所宅ニ対可来田ニテシヤナヨリシヘトロ
ノ行程ハ海上五十里位ノ由彼人申セシハ彼シヘトロニハ為
人ノ者モ有之ナレハ船中食料ノ用意ニハ及可ノイナレモ費

事確計故ニ三日ノ食料ヲ入レテ己儀役人関谷義八郎
ナルヘト因船ヲ大工一人江夫一人ハ八月十三日ニヤ十海岸ヲ
離レテ漕出ケリ三ヤナヨリハ八九里ヲ経テ半程ツルフノ赤
リト云山アリ甚タ山ナリ此岬ニ於テ俄ニ風ニ逢テ梶棒
ヨルヘキヨリ多概ツルフノ赤リ山下ノ海岸ニ舟ヲ着ケ土地只
砂辺ニシテ幽夷ノ村落モナケレハ休寓スヘキ所モナク又仮小屋
ニ可設木柄モナケレハ山中ニ上リテ木ヲ伐リテ青草ヲ西テ索ヒ
仮小屋トシ草ヲトリテ藉トス此比八月ノ下旬ナレハ寒気冷ヘ
ト雨霧ニ微シ且粗寒ケレトモナリアタク徒ニ二十八日ノ朝迄
滞留シ此難儀言語ニ絶タリ夫ヨリ凡潮ナキケレハ又漕出シ

ヘフトフトワロ三ヤウワケヤ赤トト云フ夷村アリ此村落コトニ広
ヨリ被命テ夷ヲ支配スル者人一人ツヽアリ此者人ハ多クハ
南部陸奥松前幽ハ者数十トラ渡ル夷地ヘ通船シ来語
ヲ覚ヘタルモノヲ雇テ協所ヲ三人ツヽ置ケリ夷人ニ食料
衣服ヲ與ヘテ漁猟ノ赤ヲ致サセ荷物ヲ調ルノ役目也シヘト
ロノ通船帆不掛只櫓送ノモチフナレハ凡延モ計リカタキ
故ニ海岸ヲ経テ舟所フトニ分テ漕クシヘトロニテ宿シリ此
シヘトロハ海岸砂地ニシテ後ハ直ニ山ナリ前中ニ廻村ノ如シ
然ルニ此山ニヲ義者不用由ナレ土地ナリシヘトロ川ハ海ノ
前口七八十間アレ共岸一二丁モ上レハ川幅廿間斗也此シヘ

トロノ海岸モ船ヲ有ノ人ノ測リ皆砂地ニシテ海底ニ数尺
アツテ碇ヲ卸ノ地ナシト云皆モツプニテ通船ナリ彼ら太郎
ナル者到船イタセシ以い魚漁ノ家中ニシテ其多キハ皆
コリ川中ニテ水深不見ホトノ魚ニ比魚漁ノ業ハ引網ヲ
以テ人ヲ引セヨト程ニ魚ヲ又引上ルナリ多ク又ルハ
網ヲ以テ或ハ網ニ網ヲ儀ヒカシテ程ヨキ分引上ルナリ彼ニ
言ニ述タルコトハ沢山ニ比土地ハ寒気ハ計ヤナト同様ナレ
ド此ニ篠ヲ立タルカキノ土地ナレハ凡ノ患ハ少ニヨキ様ニ
思ハレ比土地ハ北東ヲ前ニ受タル土地ナレハ可恐ハ合ハル計
也サテ義ハ帝ナル仁九月中旬比飯リケレハヤモト云モノ

エトロフ島ノ物石目ハ方石ホト金ニテ方金金位来人モ物タクハ寄物多シ

公家ノ当人ら太郎ナルモノ一人大工一人江夫二人都合五人ノミニ
比所ハ夷家五十位モ有之ナリ比方ノ此庫屋敷モ木ナケ
レハ当人ニ於テ苫ヲ以テ葺ケレ物ヲ使ヒ所甚粗末ナレハ屋
ニテ四土中板ノ囲ト云モナリ只四方茅ニテ囲タル計ニテ凡雪
入リ強浸船ノ物干上タル迄ヲ借リテハ屋ノ当リヲ二重
ニ囲ヒ小屋ノ内各宿所ノ一坪位ニ囲ヒテ酷寒ノ防トシ
サレ比可囲薄皆モナケレハ冬船ノ物ヲ干シ迄ヲ又借リテ
是ヲ以置トメ番所トス其臭気言語ニ絶タリ九月上旬ノ
比ハ屋ヲ入リ計ヤナニテ切立テシ夫ヲ以テ此陣屋ヲ切
但先三月上旬ニテ火工一人外ら太郎ナルモノ一人江

支二人を伴ひて柱松の源より出来せり 極北ノ寒気甚しへを是
コヘテ業事モナラス是四つ時比にて向ニ畑ニ火ヲ沢
山ニ焚ク火色ヲ以テ業事ヲナセリ然シモ日ニヨリ寒甚シ
一向自然凍テ動揺スルヿ甚シ又日月移セシヿ彼ア
リシトニサテ此所ハ美家ノ四軒モアリ魚猟ノ沢山ニテ番地
多ク上ル場所ナリ此地ハ東北ノ海隅ニメ是ヨリ二里位ノ
山越ニテ鄂羅斯人ノ並呑セシウルツフ島ヘノ渡リアルトイ
ヤアリシヘトロヨリ十四五丁モ約高キ所ニ登リ快晴ナレハ彼
ウルツフ島見ユルトロフアトイヤヨリウルツフ島ヲ望ム上ニ十
八里有トスヘリ見テ此四ハ快晴トイヘモ大寒ニ近キ島ナレ

アトイヤトハ美言ワタリロトスヘシ

十日 光ウトノ勝脱トメ二十里三十里ト陽メル所ハレカト不見トイヘリ

惟邦ヨリ先年松前ニテ得タル地図ヲ以テ考見ルニ二十一島ノ内ムムシリ
ヨリオロシヤノ山見ユルトイヘモ此地ヨリ彼ノ港オホツカヲハ五十里ナ
アレハ如何アルヤ実地アワケシヨリ郡景物ノ後ヲ知ルカラノ内島ニ世人ノ
ノチ島ト云右向三十七島ハ大島ニトスヘキ島ハ二十七島ハ並夷住居
十七島ハ夷人ナレ是ヲ十七ヨリ本邦ノ土地ナリ然ルニヲロシヤ別ノ名
前ヲ付セムシリ島ハ二十一島ト云此内十八島ウルツフ島ハ近年赤夷並呑ノ
今僅ニ残ルトロフ外ナシリノ二島ノ名ヲ存セリ家ニ又珍説アリ初刺元内ノ上
村田庄右ヱ門ナル者ヤリ先年松阿ニ来リテ十四五年以前松前ヘ度面セリ
予ハ安年辰五月ナル者ニ談メ其客ヲ聞ケルニ此者ハ義ノ出舟不拘ノ
支配人トナリ十六年已前ヲ義此役人ハ百姓市右衛門宇太山田新平
ナル人ニトロフ初テ渡海ノセワ彼辰五ナルモノ船ハトナリ因所ノ名ハ夷赤物
ナルモノ名先トメ宇年太ナル人トハ舟ニテウルツフノヤウス内ワニ後ハ
ル前日所ノ中ウスヲ見ルニ階ハヲロシヤ人赤夷ナリ石ヲ見アケ家居トシ其上
ニ陣天侵ヲカケテ日月星辰ノ密出ヲ考ヘ恒ニ面望ノ堅陣ノ備ヲナセリ
トスハルツフ島ヘ宇年ニナルノ人辰ヲ以トスルニ赤夷迎礼メ右居ニ
スレ時日経過ハ十八名餐夜ニ彼ノ土ニ二日帰留メ刀トロフニ飯帆セリ此内
彼汐甚急流ニメ大辰ノ水夫ニテハ成カタシ故ニ右邦ノ内舟ニ切者ナルモノ
ヲ撰テ奥州岩城ヨリ出ル用ニテ出キ片方橋ハ八丁ニシテ格送レリト

此義ハ色々ノ説アレ氏甚キ了故今爰ニ略セリ右ノ如ク十九島イヨく那羅
斯人並巻セル海ヲ見タレハヱトロフニ渡リ…ノ海ノ…

若狭国ナクシハ渡世ノ海ヲ嘸ムノ悔アラン右ニ付テハ理解ノ人々ニハ仁恵ヲ施シ
寒気ヲ防キ食料ノ養愛ク人生ヲ全フスルノ允術十分ニハアルヘカラス

左ノ一条ハ原本標記セリ残惜キヲ以本文ニ挿メリ

文化三丙寅年八月九日エトロフノ内此方様ルシヘトロ沖ニ赤人
ノ舟見ヘル由同所勤人共ヨリ会所へ申出候ニシヘトロ湖へ
出嶋間掛ノ節船中ヨリ鉄炮ヲ打シ出ル悪船ハ入候出帆共ニ鉄
炮ホ打ハ法ニ夫ヨリ上陸ノ所男七人女七人衣服ハ不残鳥羽毛
製テ飾付タル物ニ義会所へ赤人諸負之経古川大次郎十ト何国
ヨリ来リ何故ニ此土ニ来ル哉ト尋ル処洋中ニ漁ニ出ル所難風
ニ逢ヒ（漂流）此処ニ着岸ノ由申出ル

ラツワ島村役ノ者　ミレイタ　赤人ノ名　チツヒヤ　シムシリ島百姓ノ名　ペテリ　ヲヒヨヒ

男児　エヘニノイハニ　エハニ

女七人　ヘトセヤ　マリヤ　ワシナヘ　コリヤ　テル十ヘ
ノシトセヤ　ヲシヘチヘ

都合十四人

船中改メシ所　鉄炮五挺　ワキ差二本　ヤリ三本

火薬骨物ノ内ニ　鉛ノ玉　肉塊

右ノ趣承ルシヤナノ会所へ注進ス役人共帰ルト経ル人
勤奥取人ニ及ヘトロヘ参リシヤナヘリ取ヒ彼ノ舟ハニヘトロヘ陸上ケ
武器ハ流取上十四人ノ内本分ハ陸路ヲ送リハ舟ニテシヤナヘ来ル
先年赤人着岸ノ節舟ニテ逃ル所沖中ヨリ逃ル、故此度ハ船中

並陸り先ニ被参候人陸地ニ而陸り赤人之内女之子共二人ニ而し
内紛敷和約申候ヘハ悪しく相争候ニ付シヤウワケヤ辺の山中ニ逃候ニ付
何故ニ逃候やト相尋候處山中ニ日本船相見候ニ付此舟ニ而七日目ニ而へ
入レテハ金元ヘ帰るへき哉不申ニ付カラル處ヘより出て西人ヘ居
所ハ是も山ヘトヲフト云所ニ参候 此六月十三日所出立ニ而十へ
而着候儀は取立ノ居所へ入口所迄ニ而住居用ひ不申ニ付赤人
大体取是ヲ致し赤人数三ノ住所ハ南部家見張方ニ相見へ
右住所四方へ土手を築其上ニ柵せつり木戸ヲ付並板石積数々
鉄砲も所持つ赤人大ハ右儀ニ而所持個と作り候何故ニ漂着
人ニ候ハヽ此色中出ス紙面詞ニ以相尋候處実ハ無度エトロフ島
高伊相通しく處近年通セサル旨様子見ゆる様本国役人大よう役
申付候ニ付相尋候由始ニハ数々と存候へ共赤人ニ唯数々ハ出り来ノ
者取申出て其様子射撃ノ上地致候処と見得候得前ノ図ニ而
タル通テシヤウワケ島エトロフより七島 也本ハ本邦蝦夷地也
氏近年オロシヤ人並呑セしナリ此シヒイタ 千八七ヤノ二人ハ
シヤウワケ島ノ地夷人ノ由申出へ氏実ハ魯西亜ノ役人ニ而
シレイタハ天文地理ニ通セシ者ニ而男女七人内先年伊勢白
子ノ漂流人ヲ送り来レル下モ夫也アツケシ迄参りの者ニ而
此度来りし十四人実ハ右ト思ハル此十四人ノ赤人是ヨリ先ニハ参
申候ニ其居候処蝦夷を見之ニ右十四人ノ内ニ

レイタ一人い南東ノ山ニテ歩行セスに長ノ高ク成ケリ

文化三丙寅年二月廿九日より快気の由ニテ歩行セシ也 四月廿五日天気甚晴

也ケレハ山ノ中ノ遠所ヲ散セシ為ニ各所近所の山へ上り各

各散ケレハ南部家輕卒四人上近所の山へ上り始ノ安堂レテ

天気風[illegible]ノ様子ヲ考ヘロシヤも風ヲ伺ケルヲ伺ハの輕卒両

不心有彼シレイタナル者久シク他出歩行セサレハケレテ快シト云テ

牢屋へ帰ケリ空サ六月初六日南部藩ノ輕卒赤人ノ位置

都ニメモ人ノ様子ナリケレハ戸ヲ明ケ牢ヤニ大ケレハ赤人モ人ノ居

居ノ南部家留天レテ居ノ郷ヲ通 ヒ義ハ訴ケレハ夫ヨリ大キニサ

ウキニ近所ニ捨ヲスルト雖モ行先不知其通タル家ヲ見レニ牢

屋ノ四方ニ土居ヲ築キ其上ニ柵ヲ立テ居ケルヲ柵ノ下ニ土居ヲ穿テ通ケ

ルトナリ ヒ義小田ニノ図合船ニヤナノ間ニ繋置ニ乗船シ此

船ニ棹シテ十四人ノ赤胡布国ヘ渡レリト云リ

夫ヨリ百儀仮関合我八帝ナル人ハ主子図ハ南部ノ輕卒ヒ連

図合舟ニノリシトロニ近カケ式ノ様輕卒陸ヲ行シトロ

ニ尋ケレハ赤胡ノ船不知ヒ義ハ帝ナル人ヲ主人ヲ尋ネ

トシシトロヲ舟シテ猟虎島ニテ尋ケルニ猟虎島ハ赤

人一人モナリ赤胡ノ象金ヲリテ四五日モ居テ位居セル様子ニ見

得ケルト也赤人食廩ヲ開見ルニハシメ海豹皮多ク積入タ

ルト云 被并船ノ砲ナトアリケルヲ我ハ帝ナル人均系セルト云

赤人一人モナク空盃ト成シリト云

斯伯多羅鯨魚ヲトル事

シヘトロ古ノ名ハシヤリシヤマコタントモ云 南部政所シヘトロト云シヘハ鮭ノイトロハ沼ノイ鮭アル沼ト云フナリシヘトロノ名夷ヲヘクレケト云 宝永年中アリ金部奥羽ノ格サリ 俗山所多セリト云太刀九本アリ

一去る太郎九月廿五日シヘトロ浜ヘ鯨魚ヲ見ル 南丑ノ四月末ヨリ一番日悪風吹ミテ雨降ケレハシヘトロ近所高来ノ処破レテ水上リ其所ハ生ダル鯨魚十一見ヘ浜ニ残メル堅氷ノ内ニ有シ家ケレハ夷人共集リ十一ノ鯨ヲ不残トリ終ル中ノ食料ニナセリト去郎九者モ外ニ食料モテケレト彼鯨トハ月ヲ不得シ鮭ヲ取テ食メルナレハ其味甚美ナリト 惟邦考曰氷海即史根弦ノ辺ハ至テ鯨魚多ト弦堂ニ載メレハ九テ氷海ニハ沢山ナルモノトミヘタリ

漁猟并ウルツフ魚ノ事

孤多羅神ノ内シヤナヘツトフトロシヤウウクヤシヘトロハ北

ヲ受メル土地ニヲ凡波ノ患ニ付国内ニハヨキ故夷人家モアリシトナリ西南受メル地ハサテヲ漁猟ノ沢山ナル大川モナク其上悪ク凡波強ク悪家モナク未開ノ地ハ他有シトモテ此地ハ川ノ有所ハ夷人ノ家所ヲ取ル川筋ヲ下スルニ家ニ筆メル切所ノミニ不限川有所ハ鯨鮭至テ沢山ナリ内ニウルウフト云魚アリ其形鯨魚ニヒトシク味美ナリト鯨漁ノ節鯨ニ交リテ上ルトモ彼部羅斯人伯兵ノウルウフ魚モ魚沢山ニ有シ故魚

ノ名ニヨツテ鯨名ヲ異ニスルフ魚ト号セシトナリ或魚ハ
シリ魚ヨリ興魚ニアリトナリ其人夫一人食料トシテ鯨漁ハ六月
ヨリ陸ニ川ニ上リ七月ノ末ハ八月中旬ニ鯨漁ヲ終セシトシテ鯨漁
ハ毎年四月中旬ヨリ魃魚ノ漁ニ取掛リトシテ魃魃モノ粕
ニ成シ油ヲ魚油トス其外鯨ナトハ四季ノ別ナク有之ナリ
鯨ナトハ当年五月ハ寂中ノキルトシテ其外小魚ノ数ハ沢山デ
牧業スルニ堪アラストシテ川漁ノ業事ハ主トシテ海魚アル
ニ限ルシ其土魃魃ノ所在魚ノ肉ニ沢山ナル地ナレ共塩ヲ切テ
魃塩ニスルヿハ如何ナレハ本邦ヨリ遥遠ノ地殊ニ六七
年前ニ露国役近藤十蔵ナル人兵下司原山宇平太山

鯉平ナル人浜海子剣ノ開闢ニ来リ其地多羅拂島ヘハ水海船寄
ノ地故松前ノ土人ト雖モ漁猟ヲスルヿナリ天明丙午年ニ露国人新
上事堪ナル人初テ浜海セシハ其地多羅拂ヘ本邦人初テ渡リシ
権輿ナリ如ノ土地ナル故松前藩家モ其土ニ浜海スルヿナ
クシテリシトハ先年ニ松前侯ノ建上屋モアレハ物ク其土ニ
至シリ況ヤ本朝外国ノ人ヲハ凡恢其他ヨリモサキヨリヘツ
ヤフサキノツケ岬ニノ間新事ニモ拳タルハカリ雷霆ニテ日
光ヲ見ルヿ稀ナル故ニ針路ヲ方位ヲ考テ航走スルヿヲ
得ス殊ニ其トロフ西所ノ大洋一面崎山ニ水ヲ盛タルカキノ海
西ナレハ磯ヲ下ス頃ナリ故ニ其トロフヘノ通船甚難シトシテ故

二処ノ運賃ハ百石目五十両ノ処ニ付ニ年ヨリ
稍引下ル時ハ三十両ニ成リト鰹魚ノ場引下ル鰯ハ
ヒトロフヨリ弟敏ニテ千石目ノ運賃ニ百両ニテ一石目ハ当中
ノ銀ニテ三十目也故ニ一向引合ヒトロ鰹魚ノ利益油ハ先
ハ利分ニモナル故荷物ヲ仕立積出セリトヒトロフヘノ廻船ハ
七八百石ヨリ上ノ船ニテナケレハ危シトヒ汐ノ流ニメ難
繁大洋ナル故事ニ波濤アラク小船ナレハ之ヲ漕クナ
ラス破モ小ニテ細キ故海辺ノ岸岩ニスレテ久シク持コラ
ヘルナラス少シ波アラケレハ矢倉ヲ上ニ波折上リ働クヨモナ
ラサル故ニ大船ヲ以テ運船スヘシトヒヒ

新場トハ蝦夷国也

一

ヒトロフ弟一ノ産鰊（支言ハル鰊イワカ）鮭（スヒキ スヒハ鮭イレクス）
ウルツノ魚ヲ以鮭トヒ江戸ニ毎年二百石目ホト上ル鯛鮮ナシ其外大体ヒルヒ

ヒヤナヨリシヘトロ陸路ノ事

ヒルヒノ年九月ヨリシヘトロニ居合ノ者当四月二百日所ヲ出足
ニテ陸路ニテ飯リシ以ハ中雪路ニテ海岸未タ氷未解ハ
武方ノ崎ヨリ向ノ崎マテ海岸陸路ニテ通ルニ十里ハ可有之
氷不消故ニ氷上ヲ道径ニ成シ徑四五里ノ外ナシトヒ迫ヒナ
シ多クハ氷ノ上ヲ漕ヒ四日漕ヒ四月五日ニシヤナヘ着セリナ
シ大図シヘトロヨリシヤナヘ陸路四十里ナリトヒヘリ四月上旬
ニテ初氷トイヘハ新場カ尖山ニトキノ氷ハモカリアラニ未
シク思ハル

樹木花ノ事

一去る子年五月十二日暴雨ノ時人馬迷多罹難者出シ以ヘ山樵家中盡ク卜雪消モ遅ク温風吹クノ稀ナレハ穂ケノ仲木花実モ為中ナトヨリハ殊ニ四十日位モ遅シト云

夷人家居ノ事

一彼辰丑年ナル者ニ咲ヲ伺ケルニ当地夷人ノ村落東北ノ方二十ケ村程モアル由当村ヨリ幾ヨリ場所ニ今所モ是者人モ居リケレハ余程村数モ少シサレリトヲ西南ノ方ハ未開村落モ多シトヲ村落ノ内ニヤナハ少ク開ケル所故ニヲ儀衆ハ土地ニ法合テ四方ノ場所ヲ支配ノ指色ヲ運送スル故ニ

当村ハ夷人稍集リテ夷家ノ八九十モ有之トヲヘリシトロハ夷家四十斗夷家ハ遠近所ニ不限我住所ニナルモノニテ漁ノ有之土地ニ家居ヲ作リ其土地漁ナケレハ又別所ニ移替セル故ニ定タル住居ナシヤ斗リハ義衆分添テ云餘セシ故ニ本邦ノ如ク農ヲ為ハテハ傳家ノ後ニ作シリト其外ハ未タ曉ヲ住居也トヲ夷小屋ノ作リハ釘トヲモノヲ不用只樺(カバ)ヲ縛ヲニメヲヒヤウ、ヒダ抜ヲ以テ併屋根ヲ四方ヲ茅ニテ囲キ遠蔓ノ編物ヲケレハ海ニ生ル草ノヤウナル草ヲ取テ是ヲ黒ク染茅ナトノ様ニ織リ蓋物トシ名付テシタラベト云ヲトロフハ黒ク染ルヲモナシ白地ニ織テ云数

物ヲキキ十ト云

野菜ノ事

一 此地ハ食用ト支ヘキノ野菜ナク只山中ニ入テ山蕨ヲトルノミナリ 独活ナトハ稀ニアレモ五月比漸ク芽出シテ大抵ノ所ニハトラサル之有ル名年一六月畑ニ可成土地ヲ見ル者中ノ江戸ニテ大根ヲ蒔セケルニ九月末ニ至リテモ大根ニナラス只青葉ニテ終シト云事ニテ特ニハ余程ノ大根ニ成シト也

惟邦曰ク此ハトロ迄ヨトウセロトヲ所アリ皆中ノアサシキニ似タリト云其実気強ク食料トシ浮腫ニ有ヲ治ス系秋ノ方年中ニ似リト云

草木鳥獣之類

此土地ノ樹木ハ赤松 唐松ト云ハ系 度々ニテ多分

斗ニメ系ニ平田アリテ居中ノ湯眼ト云為ニヨク似タリ木ニ脂ヲリテ本理ニ松ニ等シクト云其外柳、ヘンノ木、其内沢山ニテ此陸奥ノ

十トニスルハカヒ梶ナリト云 惟邦曰ク此カヒ梶ト云木ハ陸中岩木山ノ麓ニ多シ此木ハ光沢ヲ所ニ生スルモノトミヘテ皮ヲ強シテ盃□ナリ只屈曲シテ松ニ成ルト云ヘリ

金所ノ切組ハ多クハ赤松ヲ以テ作ルト云者ニシテ切組ハ

名所ハ傳聞モ皆赤松也ト云トハ松ハ成為中ニナシ其外見

別サル茶木モソコ、ニ可有ケレモ名ヲ定カニ不知ナレハ変

ニ不挙其外異木異草原山幽谷ニハ何可有之辺辺ニハサ

テナシト云 城ニ外国遠敵ノ為ニメ氷海ノ土地ナレハ異怪

ノモノ可有其外紫草石菜鉛 鉛金銀ノ類 高麗人有

ホウイシハラシ（テカ）
ノ表狐ニ黒狐
斑稀ナリ班狐
白狐モアリ又ト
コロノ班狐ハ稀
ナシ

テ誉定セリ出ルモ有ヘシ　ユトロフ島ニヲヘアヘトニ物アリ形大美
トモ燒スルニ自然ニ分ル也誠ニ奇ナリ成オヲ
ヲメンヨトニ　ヲベハホノチノ一ヲベ　ノ如ニメノ奇油也火ノ分ル妙也不燒
上トス是夷松ノ枝木ニ生セシ菌也鳥獸モ除リ本邦ニカハリ
タル異物ナシトニ黒熊白熊猩猩ホウイン白熊ハ稀ナル
由惟邦吉森ニ在勤ノ節予カ知音　ヒ義氏役人ニ物三年
ナル人出所第敬此時役成仁クナシリ掛リ合ニテ日所出用
ハ隔四月下旬東都ヘ登ル節青表熊皮壓ナル有旅
宿ニテ予ニ可来由ヲ而三畫間ヲ投セシ故彼ノ旅宿ヲ訪
ヒケレハ幸ニ来レリトテ悲悦ヲトリ登ノ白熊二才ノ仔獅子ヲ
今度　内府公ヘ　上覧ヲ為ル如ヲ一見致サセシ為ニ招シ

十リトテ自先ヲ立テ彼白熊ヲ見セシニ誠ニ怪獣ニテ白毛弱骨
太ノタクマシク大サ犬ノ如シメノコノ育成タル仔獅子ナレハサマ
テタケシキノモナシ予王余魚ヲ與ヘシニ骨肉ニ其侵食シケリ
然ニ金色灰色ノ処モアリ　夫ヨリ高橋十人組教ノ子シリ　ユトロフ異人ノ
凡土ヲ探シリ予ニ又語花利亜（惟邦白語花利亜ハイキリスノイヒ和蘭ヨリ海上九十里一名ユニゲラニ）
ドノ船ヲトモノ白鳥洞ニ著岸セシ所図ヲ送シリ是ニ付テ色
ミノ咄珍説アレモ長キノ故爰ニ略又是ヲ以テ稿ニ彼怪獣
ノ白熊ハ多クハナシトイヘ所ニ地ニハ有トミヘタリ其土地ニ
ホウイシトニ歌ハ形栗鼠ノ如クニノ背中ニ十ニアル鞄ナンヘシ
トニリ　栗鼠ハ四季トモニ灰色ナリ　猫ハ多ク衆出没シ処ノ二匹アル計ニ

鼠いまテ多シ又山中ニ稿鼠ト名付タルモノアリ之稿氏ヲ
送リタル稿鼠ノ皮ヲ見ルニ黒茶ノ毬状アツテ実ニハ文行ノ如
シ是一名ノ地鼠ナリ式嶌ニハ鷲多ク所在嶋外一ナリト雖モ
夷人住居ノ海岸ニハ多ク不来只山中ニ飛翔セリト丁鴨
ハアレモ多ク不有彼ニ太郎ナル者シヘトロニ養飼セシ形
シヤウワケヤ四五羽ニテ丁ヲ一二羽ニタル斗也ト云雀ハ
一切ナシ鶯ハアレモ其ノ鳴ノ声稿ノ叫ベルニヒトシク本邦ノ多
ト称カワレト其外不見剛小多沢山ト云海鳥ニハ鶴ハ
ナク只有モノハ鴎斗ナリ（雲雀鶉チヤウテ鳥鶴右多丁春秋
多宮多シ白多鴨四多ハ此ニアリ）
蕃中ノ海崖ノ岩キハシノ赤キ海鳥アリ赤人トリテ形鮫トス式多ノ啄
ヲ以テ衣トス卍トロフノ夷人マヽ着ルナリ卍トロフニ嘗アリト云

宮殿丘山ニテナルヲナシ又海獣ニハ膃肭臍、トド、ラツフ、猟虎ナシ只有
モノハ海豹ナリ巻数多クアルヲ蕃中ナトノ可及ニアラス
（膃肭臍モアレトモ
アリトス）

夷人鷲ヲトル法

卍トロフ夷人ハ鷲ヲ（大鷲ニイラフト云真羽アルヲトルヲ用ルニ
云トモ也ハ鷲カバチリト云）
二月ノ堅雪ノ長浜山ニ入テ雪穴ヲホリ本ヲ以テ其ヲ
覆ヒ人形ノ如見様ニ為テ其前ニ餌ヲ置キ猟ノ鷲鳥
式餌ヲ見テ下リ餌ヲ食ル居ル節彼雪穴ヨリ是ヲ窺ヒ
見スマシテ曲鉤ヲ鷲ノ足ヘカケ引取得シナリ式鷲ノ羽ハ
下極夷地第一ノ品極物也

ヱトロフ島小人住居ノ事

ヱトロフ村落ノ内十人住居セシ土宅アリトテ太郎丸者等ノ島ヲ見ルニ山ノ中間ニ其口三四尺斗ニシテ奥ハ二三間位モアリテ石部金山ノ鋪ニ似タリトテ夷人ニ聞ケルニ是小人住居セル宅ト云古夷人ノ住居セサル前ニハ皆小人ニテ島ニ住居セリト翁ノ年来ノ住ニシテ二ツナキト夷人語レリ八九十年以前ノナレリヨリ夷人ハヱトロフ島ニ渡リシヨリ彼小人ハ散ニ離散シ去レリトテ今ヒヤナシヘトロ辺ニモアレ共シヤウツケヤニ多ク宅アリ如ナ年ノ住メルヲナレハ小人ハ穴居ニアリ

惟邦考曰小人ノ国ハ新階事ト云タルウニコトノ近国也ロノ国リトテ氷海ニメヱトロフヨリ離レ一万ノ千里ナリヱトロフセニフヲ共ニ皆此

口出也ニ近キ邦ニメ大唐紀侯ハ似タリ此ノ如千里ノ海タル国ヨリヱトロフヘ来テ住居シ又本邦ノ新階ヘ飯ト云モ不審キナリ新増カト云ナレハ彼西洋語ニ利亜仁モニテノウハト云ハ新ノ見出タルト云云語ナリ然ハ新ニ見出タル小人国ナリト可云

実山増カ近所ニコトクク氷海ニメ西洋ノ人モ近年ニテハ約メルヲナレト云語出ニモ出タル通リ也ヱトロフノ人往古ヨリ小人ハ九十年已前ニテ住居セニ其況ヨリ所在盆ノ内ヨリヱトロフ氷海ノ内ニ住ノ島ヲ見出テ引移セシモ計リカタシ彼是イフカシキナリ

尚徹考ノ考ヲ可俟
実山ハ夜国氷海ノ近国ナリ

斉亜那陶甕ノ器物ヲ初リ出セシ事

斉亜那ヘ客織南部ハ軽ノ北陸ノ産地形平均セシニ小キ甕数個ノ陶器ノ如キ十ノ数ニハアラス焼カヘリテ水入テ

モ不滿トス其物出セル陶器ノ内全個シタル物一二ヲ得テ
ヲ義報ニ與ヘシトヲ又舍所酋長ノ義モ出タリトヲヘリ土
人小人ノ畜物也ト云ヘリ是年ヲ橋氏ナトノ咄ヲ聞ルニ此日人
少ナシリ話合ノ節モ多ク出セリトヲ是ハ無ケ國ノ數
畜ニテ多クハ屋畜ヨリ客歲番中此所廣形ノ七ツ方三四
ヲノ蝶番アル鏡ノ鏡出タリトヲ鏡面ニ人形アリ是鄂羅
斯ノ女帝ナルベシ其外鉄ノ刀其ナド色ニ出タシ日本模
ルトヲ先年ヲテ ヲロシヤ人ノ住所ノセツ日所ノ樣ニ屋ナリ
トヲヘリ

夷人ヲムシヤイ事

カムイハ惡人ノ名稱トシテ
ニシハハ侍
ノ事トヲリ

一

ヱトロフニヲムシヤトヲイアリ是ハカムイニシパナト初テ此地
ニヲシハハ遠遠ノ地ヨリ出ヘヲ事ニテ第山岸スルノ祝義ヲ
述ルトヲテ毎年ヲ四年一里ニ隔ヲ村ヘ船回
シ老少ヲ集テ彼ノニシハハノ所ヘ来テ是祝ノ祭敬ヲ十七
リトヲ出節協者ヲ夷人共ニ與ヘサレハ甚不快セル故ニ其
測度ノ名ヲ化陣屋ヨリ二十人ノ番ヲ四ツ五ツ出
シ大ニ者ノ二三持モ預置セハ不悦解ニ來ノ和來
ノ羅ヲヲトリ淨留理寺ノ舞思ニ驚ヲ施シ二後
日來ニ飽候酌前ニシハハ故ルトヲリ是出土ノ風俗ナリ
ヱトロフニ名夷ノ事ヲヲ義最詳ニ

蝦夷人民に絶せし事

ロトロフ嶋乙名に市介なるものあり此者年齢三十五六才
にして才智隆力ありて明敏の者人にして中比蝦夷
の地惣てトロフ天晴明因千年最上事能なる人にして
渡海せし比い鄙蠻新人トロフ国に居せし故彼国の書語も余
程通晴せし故赤人に系図を乗しい市介なる夷人通詞せし
トロフ市介の夷名ヲテ閑ヒカ忍忍セリ市介トロフ云い公
儀に服ヲ仕タル名なり彼夷人民に化シケレい其余の
夷人多クハロトロフ中民に化セしより此市介なる夷人
蝦夷ヲ刺テ苛酷い強暴の人になりしトロフ云ふ年号
詳へ此用にテ上島せし節ナトい家ノ引取初職に太刀格ノ
服装にテ参りしト云 夷人中比に年号ハカリ刺髪ヲ立ルトロフ嶋
惟新考曰王政ノ徳化にテ蝦夷ノ名ヲ改メ年号ハカリ刺髪ヲ立ルトロフ嶋
右此用にテ石川源志方侯名代四郎ヲ国ノ流人幸右衛門人送来ルセツ
寛政十一未年三月京元近長坂吉兵衛名代ヲ以トロフ人又
トロフ嶋中三度村竜馬山蝦名ヲ以トロフ人ヲ使ハセし
しい共一二ヶ月ヨリ外ソウスト云

家忠祝

おもふまるこれ日の本乃ひろき世の宝ものとなる作らん 石川
おふくらしくこそあるこれ日の本の中なる人かしこ紀男のめく実成 村上
夏武者るこ人く弟のこと之とゝ云ふ九ち民人のたもさるめるら
すりくりをゝるるりたるしのひるるとゝをゝとゝ知くいのく
人くをゝ〜めくるゝ

長坂吉兵

陸奥國出羽國ノ海辺ニ漂着シタル日本ノ船ヲ我国ニ送リ来ル

新人ノ人タル道ヲ不知シハツイニ鄂羅斯ノ名ヲ聞テ皆彼国ト

トナラヒ早ク良計リ廻ラシテ夷人ヲ人民ニ化シ神国ノ仁政ヲ鄂

羅斯ヲ押ヘテ我国ノ御ニン恵ヲ不可捨ル也

西海丹島黒狐ノ事

下総国地ノツシヤフ岬ヨリ南洋ニ五十里離レテ西海丹ト云

島アリ 号鈴ヨリクナシリ迄トロフヘノ通船地方近方ヨルサハノツシ

ヤフ岬ト スイシヤウ島ノ内ヲ通ル切者ノ船為いヨロタシノ沖

ヲ通ルナリ凡壱千ばい ヒメタシ島ニカヘルヒ

島ニテモナシ其上壱地モタクヤ上ラサシ古ヨリ松前長ナトヨ

リ運上島ナドヽ云フナノ通事者人モ武島ニ渡海セルナシ

トロフクナシリノ通船凡壱千ばい又雲霧方位ノ不知ノ節ナトハ

武島ニ泊カヽリセル外リナリ松前在島ノ黒狐アルハ武島ヲ

ヘトラ島ニ武島ハ北ルツフニ近キ島ナル故鄂羅斯ノ出来共

モシタヽ人モ難計ラ義ニテ思ヒ付ケルヒヤエトヲ拵合関谷

我八郎ナル人武島ニ渡海シテ宝物ヲ三番人ヲ置ケリ

熱多羅物ハ為義報書ニ渡海ノ事

松前長鈴土着ニテ義ヨリ拾余年前桂千郎ナル人アリ此人事

ヲ共ニ長鈴ニ住居セリ当年四月桂千郎ナル人書ヲ運

テエトロフ渡海セリト松前ノ都ヨリ奥百里ノ彼海ヲ隔タ

ル異国ノ永国ヘ来トラモノハ城ニ一世ノ豪傑ナリ

成簣堂文庫

附録　ヨトロフ島　ウルツフ島

宝暦六年五六月十七日紀州岡村湯川島ハ左之川ヶ船風見
ニ逆テ漂流シテ此島モヨロトヽ云所ニ着此付俗人ヲ夷人ヒ
初テ見タリ
タンヽモイヽモヨロノ辺辺ニシヤシトヽ云昆布アリ若布ヽ如ク
シテ若クノ鳳凰ノ尾ノ画キタルコトシ又芭蕉葉ニ似タリ幅
ノ廣サ一尺二尺ニ過リ短キハ三三丈長キハ十余丈ニ至リ
実ニ希有ノ昆布ナリ（ヨトロフシヤシリ也所ニ中五六寸長七八尺昆布アリ甚ウツクシ　剪リテ汁ナトニ入ル
すいまハルフ
ロノヤシレトヽ云）
此島ニクイト云木アリ柔ラ五葉ニシテ李邦柳ニ似テ五葉

也木理細微ニシテ木ノ色赤シ此柳ニ生スル草ヲ夷人クイトルシ
トヽヲ則ヨトロフロ也又トボシレトヽ云此切能疝癪脱腹痢腫又
血留ニヨシ数年ヲノ打テ細末ナルヲ上品トス（惟邦考曰此クイトヨリ別
聖国ノ者ノ云唐松ニテ可有ナリ）
ヨトロフ島ニモシリノシレトヽ云所アリ此所ヨトロフ
ヽ云岩山アリ総角ノ形ニヨク似タリ此岩ノ見ニテ此島ヲヨト
ロフ島ト名セリ往昔キクルニシヤニイグルトヽ云二人夷地
地ニ漂タルカ其二人ノ太ク環ニ下ケシ緒ノ形ニ似タルトテ
ヨトロフト名タリヨトロフハ下ル緒ノフツタラハ岩イ
シ此二人ハ義経弁慶トヽ説アリ（惟邦考曰或説ニヨトハ夷言廣
ニトヽ云フルフハ太イトヽ云フハ
陸奥州記録）

一

峠ノ方ニ度々大イ岩トカノ徒モアリ

一

此土ヒヤウツケヤトカ所ニ馬糞樫アリ土色白色ニシテ和カナリ実トニ餅ノ如ク夷人水干シ食料ト又其味美ナリ

一

エトロフ送会ノ軽舟ウヨリヤウヨ拾為セリ見ルニ色白ニシヤウツケヤ ヒヘトロヘヨリ西中ノ岩ヨリ出ル小赤色ニ注腔ニ良

一

エトロフノ内エトヒリカ形鳥ホクノ魚アリ此辺多シ

一

シヤウツケヤ西北ニアタリ凡路十里計ノシヤムトカ無アリ此所ニシロシヤノ人ノ標木ヲ立ル柱ニ千ロシヤノ国字ヲ以テ書記セリ ロシヤノ人星ヲ甚礼拝セシト云リ此表木ニ分大事ノ事アリト云ヘリ 此ヤリシヤムハ前ニ曰ヒヘトロヨリ赤狐カ毛タ入ル標木ヲ江戸ヘハ差セニテ名儀ノ多門蔵ニ納メシト云

一

此島東北ニヒヨヘツトカ所アリ此所ニ滝アリ高山ノ絶頂ヨリ如ク隙ラスシテ真直ニ海中ニ下ルナリ其ヲ遠望スルトキ空中ヨリ白布ヲ下タルカ如シ此辺ヲ往還スレハ細雨ノ下ルカ如シ流ノ下ル音雷霆ノ如クニシテ山嶽皆動ク夷地ノ一ノ奇ナリト云ヘリ

一

ヒヨヘツヨリ東方凡十余里計ニシテモヒリワツケトカ所アリ此所焼山アリ此焼山ノ根回リ東南ニ向ヒ延一日ノ路程ナトウシルイトカ所アリ此地ヨリ南ノ方海岸峠ニシテ陸行ナラス此所ヲ過レハシレトコヒリトカ言山アリ此山峯ニ焼テ日本陸奥ノ恐山ノ如ク大石ノ形英山ナリ絶頂ヨリ流

ルヽ小川アリ硫黄ノ気ニテ其水ノ色黄赤ナリ又温泉モ
アリ凡テ東南ノ地ハ未開ニ属シ峻嶮ニシテ村落ノ形勢モナラ
ス殊ニ荒海ニシテ産物モ少キ故ナリ

一 ウルツプ島一名獺虎島獺虎共ウルツプトヽ云魚多クアル
故ニ名タリ此ウルツプトヽ云魚ハクナシリ島ニモ
アリ其形鰐ニヒトシク味美ナリ

一 エトロフノ内シヘトロヒニヨヘツヨリウルツプモウリヤヘ
渡海スル也ウルツプノ産ハ獺虎ウルツプ若布海膠多アリ
獺虎ハ海獺ヲ食スルヲ好ムトヽ云リ
モシリヤヨリ僅北ノ方ニタフケワタトヽ云所アリ此ニ英金

山色アリ是ヲシルニ課間トテ金山ノ憂アルナレハヨキ金山ニモ可成
トヽ云ヘリ又北ニ過クレハセリツトヽ云所有此処ニ温泉アリ

一 セリツヨリ北ニ過レハ沖ニ岩島アリ此島異多多ヒトリカ
ソレンシヤムキリナトヽ云物アリ

一 セリツヨリ北ヘヘウツヌアイツトヽ云所アリ此アイヨリ又
北ニヨシタシモイトヽ云所アリ此所ヨリレフンチリホイヒカシヘ
ノ島見ユル

一 ヨンタシモイ夫ヨリ北レムクヌ又南ニ約ケハチヘヤエムトヽ云所ア
リ此所ハ獺虎ノ一ノ漁場ナリ此地ヨリ南ニ行テワキチトヽ云
所アリ此所ヨリヒヤノ船カヽリ場所ナリ

支目氏ナル人長崎奉行ノトキ海来ノ紅毛船ノ加比丹トウ
エレムヘイナル者語テ云我朋友日本ノ属島蝦夷地ノ島ニ
故アリテ渡ゆセしす魯斉亞人開業ヲナシテ夷人ヲ悉ク服
従セシヲ二ノ当リ見テ歎キテ語リケルヨリ其加比丹ハ和
八年光新国唐泊浦氷生郡太郎ナルモノ南洋ノオルランダ
国ヘ漂着ノ中九年スギテ其加比丹孫太郎ヲ連レ渡海
セシトキ魯斉亞人ノ物語ヲ詳ニセ略ニオサテ語リト
雖ノ開国ト志久シキイト開ヘタリ嗚呼本邦ノ大事怨ニ
スルニナカシ
天明年ノ年最上常矩ナル人エトロフヘ渡リシ中魯斉亞人

イルクツコイノ内シメテントロヘイシユイシユヨツコウ同国ヲ未
刃ノモノイワンウエンコトシユサレノスコイニ達シ帝色
ク説ヲリ乗ク学ヲ見テ可知

原本一巻係函館縣図書
明治十六年十一月十四日 横浜 函館未度御倚兵

國立臺灣大學